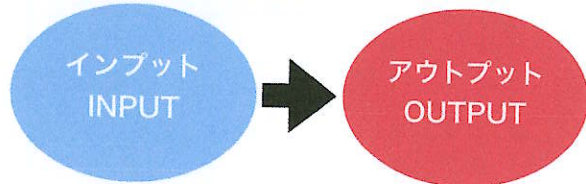


なぜ行事で人は成長するの？



インプット と アウトプット



知識・解法の「学習」

表振り

クロッケのレシピを知る

人はここでの学習→理解
を定着と勘違いする

知識・解法の「活用・運用」

練習試合

たくさん作る

実際にはアウトプットなしで
定着はしない

インプットからアウトプットへ

IN → OUT
 聞く → 話す

読む

見る



書く

合唱はまさにコレ!!
魅せる

自分の殻を破る～行事で成長するワケ～

社会の授業で「2学期の授業は「アウトプット」がキーワードだ!」とプレゼンをした。みんな「ん??」という顔をしていた。1学期途中から学んだことがみんなに定着しやすい授業とはどんな授業かをずっと考えていた。今までの自分の授業は「インプット型」の授業であった。みんなは授業を聞き、教科書を読み、大型モニターやクロムブックで動画を見る。もちろん、板書もキレイにとっている。一見、きちんと授業が行われているように感じるが、実際、自己診断テストでは54点という平均点であった。テストの難易度からすれば平均60点以上は取ってほしい内容だった。私の今までの授業ではみんなに今以上のチカラをつけてあげられないのではないか、そう思った。

では、みんなにチカラがつく授業とはどういうものか。それは、「アウトプット型」の授業である。学んだ知識を使って誰かに説明すること、言葉でまとめること、全体の前で発表することなどがあげられる。できるだけ授業の中でアウトプットの時間を確保するために、夏休み中の課題をノートづくりとした。今は授業中に「何でだろう?」とか「こんなことあったらどんな気持ちになる?」、「〇〇さんはこう言っているけど、△△さんはどう思う?」なんてやり取りをしている。みんなも疑問に感じたことをクロムブックで調べたり、周りや相談して疑問を解こうとしている。また、必要なことをメモに取っている仲間もいる。考えなければいけない状況が知識を定着させる有効な手立てになっていると感じる。

前置きが長くなったが、「行事で人は成長する」。これはこの仕事に就いてから強く感じることである。では、なぜなのか。行事は「アウトプットの塊」だからだと思うのである。合唱にしろ、体育種目にしろ、自分を表現しなければならない。もっとこうしたいのに・・・と思っているだけではなく、それを仲間に伝え、もっとよくしようと話したり、日誌に想いを書いて表現したり、時にはみんなの前で「こうしてみないか」と提案したりする。みんなに言う以上、自分ももっと頑張らなければ、と今までの自分の限界を自分で超えていこうとする(自分の殻を破る)。そんな好循環が生まれるのだ。中には面倒だと思っても仲間の頑張りや想いがそんな自分の気持ちをぶち破ってくる。だから行事で人は成長するのだ、と体育館で学年合唱を聴きながら考えを巡らせた。散々、行事でそれを感じていたのに、どうして授業でそれができなかったのか・・・と嘆いてもしょうがないので、今日もまたみんなと共に学んでいこうと思う。ここで大切なポイント。授業も行事も一生懸命、全力でやるからこそチカラはつく。お忘れなく。

アウトプット学習

